

第2章 蔵書・資料製作

本章では、蔵書・資料製作に関する調査結果をまとめる。

1 資料の所蔵状況・自館製作状況

本項では、障害者サービス用資料の所蔵や自館製作について整理する。

(1) 所蔵状況、自館製作状況、令和2年度の新規製作状況【問1】

ア 障害者サービス用資料の所蔵館数

資料種別の所蔵館数は以下のとおりである。都道府県立図書館では「大活字本（市販）」が46館（97.9%）と最も多く、「LLブック」が44館（93.6%）、「点字つき絵本」が42館（89.4%）、「点字資料・点訳絵本（冊子）」と「マルチメディアデージー」が36館（76.6%）、「布の絵本」が33館（70.2%）、「音声デージー」が30館（63.8%）と続く。

一方、市区町村立図書館では「大活字本（市販）」が1,234館（91.9%）と最も多く、「点字つき絵本」が1,124館（83.7%）、「点字資料・点訳絵本（冊子）」が994館（74.0%）、「LLブック」が877館（65.3%）と続くが、都道府県立図書館では所蔵率の高い「音声デージー」は331館（24.6%）、「マルチメディアデージー」は261館（19.4%）、「布の絵本」は586館（43.6%）、にとどまっておき、差が見られる。

なお、所蔵数が「不明」と回答した館は所蔵館に含めた。（表2.1）

n=1,390

資料種別	所蔵館数	所蔵率	都道府県		市区町村	
			所蔵館数	所蔵率	所蔵館数	所蔵率
1 点字資料・点訳絵本(冊子)	1,030	74.1	36	76.6	994	74.0
2 点字データ	55	4.0	3	6.4	52	3.9
3 点字つき絵本	1,166	83.9	42	89.4	1,124	83.7
4 カセットテープ(障害者向け)	425	30.6	19	40.4	406	30.2
5 音声デージー	361	26.0	30	63.8	331	24.6
6 その他の障害者向け録音資料	256	18.4	9	19.1	247	18.4
7 マルチメディアデージー	297	21.4	36	76.6	261	19.4
8 テキストデージー	24	1.7	3	6.4	21	1.6
9 テキストデータ	21	1.5	5	10.6	16	1.2
10 大活字本(市販)	1,280	92.1	46	97.9	1,234	91.9
11 拡大写本(製作したもの)	66	4.7	4	8.5	62	4.6
12 LLブック	921	66.3	44	93.6	877	65.3
13 布の絵本	619	44.5	33	70.2	586	43.6
14 さわる絵本	624	44.9	27	57.4	597	44.5
15 その他のバリアフリー絵本	461	33.2	27	57.4	434	32.3
16 聴覚障害者用字幕・手話入り映像資料	434	31.2	20	42.6	414	30.8
17 バリアフリーDVD	397	28.6	11	23.4	386	28.7
18 電子書籍	173	12.4	13	27.7	160	11.9
19 その他	48	3.5	3	6.4	45	3.4

表 2.1 障害者サービス用資料の所蔵館数（複数回答）

イ 障害者サービス用資料の所蔵タイトル数

資料種別の所蔵タイトル数は以下のとおりである。都道府県立図書館では「大活字本（市販）」が平均2,592タイトルと最も多く、「カセットテープ（障害者向け）」が平均1,869タイトル、「電子書籍」が平均1,773タイトル、「その他の障害者向け録音資料」が平均740タイトル、「音声デイジー」が平均727タイトルと続く。

一方、市区町村立図書館では「電子書籍」が平均3,767タイトルと最も多く、「大活字本（市販）」が平均1,290タイトル、「カセットテープ（障害者向け）」が平均591タイトル、「点字データ」が平均339タイトル、「その他」が平均336タイトルと続く。

全体的に都道府県立図書館の方が平均所蔵数は多く、「カセットテープ（障害者向け）」、「音声デイジー」、「マルチメディアデイジー」等はその傾向が顕著である。一方で、「拡大写本（製作したもの）」、「聴覚障害者用字幕・手話入り映像資料」等は、市区町村立図書館の方が多くなっている。なお、平均所蔵数を算出する際に所蔵数が「不明」と回答した館は除外したため、所蔵館数は1（1）アの「表2.1」と一致しない。（表2.2）

「その他」の回答を見ると、都道府県立図書館では「触覚本」等が挙げられていた。市区町村立図書館では多様な形態が挙げられていたが、「朗読CD」、「点字の雑誌・新聞」等が複数の館から挙げられた。

n=1390

資料種別	所蔵数合計	平均所蔵数	都道府県		市区町村	
			所蔵数合計	平均所蔵数	所蔵数合計	平均所蔵数
1 点字資料・点訳絵本(冊子)	234,020	<u>259</u>	17,154	<u>505</u>	216,866	<u>250</u>
2 点字データ	8,980	<u>321</u>	497	<u>166</u>	8,483	<u>339</u>
3 点字つき絵本	35,325	<u>37</u>	1,636	<u>55</u>	33,689	<u>36</u>
4 カセットテープ(障害者向け)	230,306	<u>656</u>	33,648	<u>1,869</u>	196,658	<u>591</u>
5 音声デイジー	121,577	<u>367</u>	21,818	<u>727</u>	99,759	<u>331</u>
6 その他の障害者向け録音資料	53,835	<u>280</u>	5,179	<u>740</u>	48,656	<u>263</u>
7 マルチメディアデイジー	25,687	<u>93</u>	5,045	<u>140</u>	20,642	<u>86</u>
8 テキストデイジー	60	<u>10</u>	29	<u>15</u>	31	<u>8</u>
9 テキストデータ	238	<u>30</u>	5	<u>2</u>	233	<u>47</u>
10 大活字本(市販)	1,613,091	<u>1,339</u>	116,634	<u>2,592</u>	1,496,457	<u>1,290</u>
11 拡大写本(製作したもの)	8,309	<u>185</u>	79	<u>40</u>	8,230	<u>191</u>
12 LLブック	16,316	<u>20</u>	1,453	<u>36</u>	14,863	<u>19</u>
13 布の絵本	16,252	<u>31</u>	1,125	<u>39</u>	15,127	<u>31</u>
14 さわる絵本	7,070	<u>19</u>	404	<u>27</u>	6,666	<u>19</u>
15 その他のバリアフリー絵本	1,822	<u>8</u>	87	<u>8</u>	1,735	<u>8</u>
16 聴覚障害者用字幕・手話入り映像資料	9,509	<u>40</u>	198	<u>22</u>	9,311	<u>40</u>
17 バリアフリーDVD	6,433	<u>29</u>	165	<u>41</u>	6,268	<u>28</u>
18 電子書籍	447,371	<u>3,637</u>	14,187	<u>1,773</u>	433,184	<u>3,767</u>
19 その他	9,464	<u>315</u>	64	<u>32</u>	9,400	<u>336</u>

表 2.2 障害者サービス用資料の所蔵タイトル数（複数回答）

ウ 自館で資料を製作している図書館数

自館で資料を製作している資料種別の図書館数は以下のとおりである。

都道府県立図書館では「音声デジター」が11館（23.4%）と最も多く、「カセットテープ（障害者向け）」が8館（17.0%）、「点字資料・点訳絵本（冊子）」、「点字つき絵本」、「マルチメディアデジター」が3館（6.4%）と続く。

一方、市区町村立図書館では「音声デジター」が178館（13.3%）と最も多く、「布の絵本」が159館（11.8%）、「カセットテープ（障害者向け）」が148館（11.0%）、「点字資料・点訳絵本（冊子）」が129館（9.6%）、「点字つき絵本」が80館（6.0%）と続く。なお、数館から「大活字本（市販）」について製作数の記入があったが、非製作資料もしくは拡大写本に当たるものと考え、「その他」に統合した。以降も同様である。

製作率（全体に占める製作館の割合）については、「カセットテープ（障害者向け）」、「音声デジター」、「マルチメディアデジター」等は都道府県立図書館の方が高いが、「布の絵本」、「点字資料・点訳絵本（冊子）」等は市区町村立図書館の方が高い。また、市区町村立図書館では「その他の障害者向け録音資料」を38館（2.8%）、「拡大写本（製作したもの）」を22館（1.6%）、「さわる絵本」を23館（1.7%）が自館で製作しているが、都道府県立図書館では自館で製作している図書館がないため、市区町村立図書館の方が高い製作率となっている。

なお、製作数が「不明」と回答した館は製作館数に含めた。（表 2.3）

n=1,390

資料種別	製作館数	製作率	都道府県		市区町村	
			製作館数	製作率	製作館数	製作率
1 点字資料・点訳絵本(冊子)	132	9.5	3	6.4	129	9.6
2 点字データ	35	2.5	2	4.3	33	2.5
3 点字つき絵本	83	6.0	3	6.4	80	6.0
4 カセットテープ(障害者向け)	156	11.2	8	17.0	148	11.0
5 音声デジター	189	13.6	11	23.4	178	13.3
6 その他の障害者向け録音資料	38	2.7	0	0.0	38	2.8
7 マルチメディアデジター	23	1.7	3	6.4	20	1.5
8 テキストデジター	8	0.6	1	2.1	7	0.5
9 テキストデータ	7	0.5	2	4.3	5	0.4
10 大活字本(市販)	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11 拡大写本(製作したもの)	22	1.6	0	0.0	22	1.6
12 LLブック	10	0.7	0	0.0	10	0.7
13 布の絵本	160	11.5	1	2.1	159	11.8
14 さわる絵本	23	1.7	0	0.0	23	1.7
15 その他のバリアフリー絵本	13	0.9	0	0.0	13	1.0
16 聴覚障害者用字幕・手話入り映像資料	11	0.8	1	2.1	10	0.7
17 バリアフリーDVD	5	0.4	0	0.0	5	0.4
18 電子書籍	13	0.9	1	2.1	12	0.9
19 その他	18	1.3	0	0.0	18	1.3

表 2.3 自館で資料を製作している図書館数（複数回答）

エ 自館製作タイトル総数及び平均製作タイトル数

資料種別の自館製作タイトル総数及び平均製作タイトル数は以下のとおりである。

都道府県立図書館では、平均製作数が最も多いのは「電子書籍」の平均 4,341 タイトルだが、製作館は 1 館のみである。次いで「カセットテープ（障害者向け）」が平均 1,020 タイトル、「音声デイジー」が平均 725 タイトル、「点字資料・点訳絵本（冊子）」が平均 301 タイトルとなっている。

一方、市区町村立図書館では「カセットテープ（障害者向け）」が平均 674 タイトルと最も多く、「点字データ」が平均 437 タイトル、「点字資料・点訳絵本（冊子）」が平均 399 タイトル、「音声デイジー」が平均 339 タイトル、「電子書籍」が平均 283 タイトルだった。

平均製作数については、「カセットテープ（障害者向け）」や「音声デイジー」等は都道府県立図書館の方が多く、それ以外については基本的に市区町村立図書館の方が多く。

なお、平均製作数を算出する際に製作数が「不明」と回答した館は除外したため、製作館数は 1 (1)ウの「表 2.3」と一致しない。(表 2.4)

n=1,390

資料種別	製作数合計	平均製作数	都道府県		市区町村	
			製作数合計	平均製作数	製作数合計	平均製作数
1 点字資料・点訳絵本(冊子)	32,150	397	601	301	31,549	399
2 点字データ	8,524	406	228	114	8,296	437
3 点字つき絵本	3,994	93	165	83	3,829	93
4 カセットテープ(障害者向け)	79,547	692	6,121	1,020	73,426	674
5 音声デイジー	58,432	365	7,975	725	50,457	339
6 その他の障害者向け録音資料	1,945	85	0	0	1,945	85
7 マルチメディアデイジー	507	56	70	23	437	73
8 テキストデイジー	10	5	3	3	7	7
9 テキストデータ	15	4	3	2	12	6
10 大活字本(市販)	0	0	0	0	0	0
11 拡大写本(製作したもの)	2,765	213	0	0	2,765	213
12 LLブック	53	18	0	0	53	18
13 布の絵本	5,301	42	0	0	5,301	42
14 さわる絵本	118	20	0	0	118	20
15 その他のバリアフリー絵本	1	1	0	0	1	1
16 聴覚障害者用字幕・手話入り映像資料	95	32	1	1	94	47
17 バリアフリーDVD	0	0	0	0	0	0
18 電子書籍	7,169	652	4,341	4,341	2,828	283
19 その他	250	125	0	0	250	125

表 2.4 自館製作タイトル総数及び平均製作タイトル数（複数回答）

オ 令和2年度の新規製作館数

令和2年度に資料を自館製作した資料種別の図書館数は以下のとおりである。

都道府県立図書館では、「音声デイジー」が10館（21.3%）と最も多く、「点字資料・点訳絵本（冊子）」、「点字データ」、「カセットテープ（障害者向け）」、「マルチメディアデイジー」が2館（4.3%）と続く。

一方、市区町村立図書館では、「音声デイジー」が152館（11.3%）と最も多く、「点字資料・点訳絵本（冊子）」が73館（5.4%）、「布の絵本」が64館（4.8%）、「点字つき絵本」が49館（3.6%）、「カセットテープ（障害者向け）」が35館（2.6%）と続く。

また、「LLブック」のように、1(1)ウの製作館数をオの新規製作館数が上回っている資料がある。原因としては、令和2年度の製作数に購入資料等を含めて回答している図書館がある可能性等が考えられる。

なお、製作数が「不明」と回答した館は製作館に含めた。（表2.5）

n=1,390

資料種別	製作館数	製作率	都道府県		市区町村	
			製作館数	製作率	製作館数	製作率
1 点字資料・点訳絵本(冊子)	75	5.4	2	4.3	73	5.4
2 点字データ	34	2.4	2	4.3	32	2.4
3 点字つき絵本	50	3.6	1	2.1	49	3.6
4 カセットテープ(障害者向け)	37	2.7	2	4.3	35	2.6
5 音声デイジー	162	11.7	10	21.3	152	11.3
6 その他の障害者向け録音資料	31	2.2	0	0.0	31	2.3
7 マルチメディアデイジー	16	1.2	2	4.3	14	1.0
8 テキストデイジー	5	0.4	1	2.1	4	0.3
9 テキストデータ	5	0.4	1	2.1	4	0.3
10 大活字本(市販)	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11 拡大写本(製作したもの)	12	0.9	0	0.0	12	0.9
12 LLブック	12	0.9	0	0.0	12	0.9
13 布の絵本	65	4.7	1	2.1	64	4.8
14 さわる絵本	15	1.1	0	0.0	15	1.1
15 その他のバリアフリー絵本	13	0.9	0	0.0	13	1.0
16 聴覚障害者用字幕・手話入り映像資料	11	0.8	0	0.0	11	0.8
17 バリアフリーDVD	8	0.6	0	0.0	8	0.6
18 電子書籍	15	1.1	1	2.1	14	1.0
19 その他	34	2.4	0	0.0	34	2.5

表 2.5 令和2年度の新規製作館数（複数回答）

カ 令和2年度の新規製作タイトル数

令和2年度の資料種別の新規製作タイトル数は以下のとおりである。

都道府県立図書館では、最も平均製作数が多いのは「電子書籍」の平均121タイトルだが、製作館は1館のみである。次いで「音声デージー」が平均30タイトル、「カセットテープ（障害者向け）」が平均9タイトル、「点字資料・点訳資料（冊子）」が平均8タイトル、「点字データ」が平均7タイトルと続く。

一方、市区町村立図書館では「電子書籍」が平均294タイトルと最も多く、「その他」が平均44タイトル、「音声デージー」が平均33タイトル、「その他の障害者向け録音資料」が平均30タイトル、「カセットテープ（障害者向け）」が平均26タイトルと続く。

なお、平均製作数を算出する際に製作数が「不明」と回答した館は除外したため、製作館数は1(1)オの「表2.5」と一致しない。（表2.6）

n=1,390

資料種別	製作数合計	平均製作数	都道府県		市区町村	
			製作数合計	平均製作数	製作数合計	平均製作数
1 点字資料・点訳絵本(冊子)	834	14	15	8	819	14
2 点字データ	534	22	13	7	521	24
3 点字つき絵本	248	8	6	6	242	8
4 カセットテープ(障害者向け)	693	25	18	9	675	26
5 音声デージー	5,083	33	271	30	4,812	33
6 その他の障害者向け録音資料	603	30	0	0	603	30
7 マルチメディアデージー	82	10	9	5	73	12
8 テキストデージー	2	1	1	1	1	1
9 テキストデータ	4	1	1	1	3	2
10 大活字本(市販)	0	0	0	0	0	0
11 拡大写本(製作したもの)	110	12	0	0	110	12
12 LLブック	19	5	0	0	19	5
13 布の絵本	205	4	5	5	200	4
14 さわる絵本	5	1	0	0	5	1
15 その他のバリアフリー絵本	1	1	0	0	1	1
16 聴覚障害者用字幕・手話入り映像資料	2	1	0	0	2	1
17 バリアフリーDVD	3	3	0	0	3	3
18 電子書籍	2,769	277	121	121	2,648	294
19 その他	710	44	0	0	710	44

表 2.6 新規製作タイトル数（複数回答）

なお、各資料の所蔵数については原則タイトル数によるものであるが、タイトル数が不明のため巻点数や冊数を回答している図書館が一部含まれている。

2 障害者サービス用資料の製作体制

本項では、障害者サービス用資料の製作体制について整理する。

(1) 障害者サービス用資料の製作【問2】

障害者サービス用の資料等を製作しているかについて尋ねた。

都道府県立図書館、市区町村立図書館ともに「製作している」が3割未満となっており、それぞれ12館(25.5%)、315館(23.5%)だった。(図2.1)

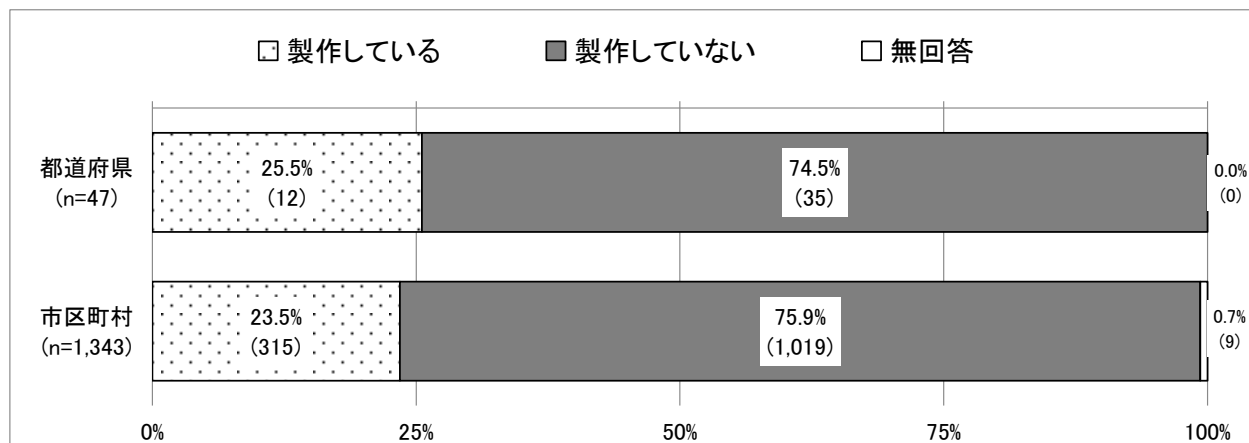


図 2.1 障害者サービス用資料の製作

(2) 障害者サービス用資料の製作者【問3】

障害者サービス用資料を製作している館に、製作は誰が行っているかについて尋ねた。なお、「人数不明」等の回答は集計の都合上無効としたため、館数は2(1)の「表2.1」と一致しない。また、グループ内の人数が不明等の理由で、人数ではなく団体数を答えている場合がある。

ア 都道府県立図書館

都道府県立図書館では「音訳」を行っている図書館が12館（平均27人）と最も多く、「デジターの編集」が10館（平均14人）、「テキストデータ化」が5館（平均7人）、「点訳」が3館（平均37人）、「布の絵本製作」が2館（平均18人）である。

製作者としては「職員」と「図書館協力者」が携わっている場合が多い。「音訳」や「デジターの編集」については、「個人ボランティア（無償）」や「ボランティアグループ（無償）」に依頼している図書館もある。また、「布の絵本製作」を「ボランティアグループ（無償）」に依頼している図書館も2館あった。その他、「点訳」を「業者委託」している図書館も1館ある。（表2.7）

上段: 図書館数
下段: 平均人数

n=12

資料種別	全体	職員	図書館協力者 (注1)	個人ボランティア		ボランティアグループ (注2)		業者委託 (注3)	その他
				無償	交通費のみ支給	無償	交通費のみ支給		
1 点訳	3 (37)	1 (5)	1 (100)					1 (5)	
2 音訳	12 (27)	2 (1)	6 (40)	3 (10)		3 (18)			
3 デジターの編集	10 (14)	5 (2)	6 (20)	2 (7)		1 (1)			
4 テキストデータ化	5 (7)	3 (3)	3 (9)						
5 拡大写本製作									
6 布の絵本製作	2 (18)					2 (18)			
7 さわる絵本製作									
8 字幕・手話入り映像資料製作									
9 その他									

表 2.7 資料製作者（都道府県・複数回答）

(注1) 「図書館協力者」とは、資料製作や対面朗読を行う人で、その活動に謝金等の支払いがされている人のことをいう。

交通費のみ支給している場合は、ボランティアに含める。

(注2) 製作をボランティア個人ではなく、ボランティアグループに依頼している場合はこちらを選択。

(注3) 「業者委託」とは、資料製作の作業について委託契約を結んでいる場合の委託を指す。

イ 市区町村立図書館

市区町村立図書館では「音訳」を行っている図書館が 223 館（平均 22 人）と最も多く、「デジターの編集」が 146 館（平均 20 人）、「点訳」が 135 館（平均 16 人）、「布の絵本製作」が 93 館（平均 9 人）、「さわる絵本製作」が 11 館（平均 13 人）、「拡大写本製作」が 11 館（平均 10 人）と続く。

都道府県立図書館と比べて、「点訳」、「音訳」、「デジターの編集」、「布の絵本製作」等は「図書館協力者」や「ボランティアグループ（無償）」に依頼している図書館数が多く、特に「布の絵本製作」と「点訳」については「ボランティアグループ（無償）」の比重が高い。（表 2.8）

「その他」の回答を見ると、「市報や新聞記事を大文字化したものの製作」、「点字つき絵本」等が挙げられた。

なお、「布の絵本製作」等は、1 (1)オの「表 2.5」の令和 2 年度の新規製作館数より館数が多くなっているが、これは新型コロナウイルス感染症の影響等で令和 2 年度は資料製作を行えなかった図書館が相当数あるためであろう。

n=300

上段:図書館数
下段:平均人数

資料種別	全体	職員	図書館協力者 (注1)	個人ボランティア		ボランティアグループ (注2)		業者委託 (注3)	その他
				無償	交通費のみ支給	無償	交通費のみ支給		
1 点訳	135 (16)	7 (2)	39 (20)	9 (9)		86 (14)	1 (38)	4 (1)	
2 音訳	223 (22)	16 (2)	82 (25)	18 (15)		111 (22)	8 (13)	8 (6)	1 (1)
3 デジターの編集	146 (20)	27 (2)	59 (22)	11 (15)		57 (22)	3 (18)	3 (1)	1 (1)
4 テキストデータ化	9 (15)	4 (4)	4 (28)			1 (10)			
5 拡大写本製作	11 (10)	3 (4)	1 (1)			7 (14)			
6 布の絵本製作	93 (9)	8 (2)	8 (9)	10 (5)	2 (4)	72 (9)	1 (10)		
7 さわる絵本製作	11 (13)	1 (2)	2 (25)	1 (9)		7 (12)			
8 字幕・手話入り映像資料製作	1 (1)	1 (1)							
9 その他	7 (3)	4 (2)	3 (5)			1 (1)			

表 2.8 資料製作者（市区町村・複数回答）

(注1)「図書館協力者」とは、資料製作や対面朗読を行う人で、その活動に謝金等の支払いがされている人のことをいう。交通費のみ支給している場合は、ボランティアに含める。

(注2)製作をボランティア個人ではなく、ボランティアグループに依頼している場合はこちらを選択。

(注3)「業者委託」とは、資料製作の作業について委託契約を結んでいる場合の委託を指す。